

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 一人ひとりが実験道具を使う時間を確保し、技能を身に付けることができた。

(2) 課題

- 全体的に知識の定着が不十分である。
- 実験結果から分かることを説明したり、共通点や相違点を見付けたりすることに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	校内平均正答率は、基礎は目標値と同程度だが、活用では、下回っている。観点別正答率では、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度が目標値を下回っている。		
第5学年	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	
第6学年	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに全国平均をやや下回っている。知識・技能では、目標値を4.2ポイント下回っている。	全体的に目標値を下回った。特に知識・技能では、目標値よりも4ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値と比べ、同程度だった。磁石の極の性質や物の重さ、音の性質などの知識の定着に課題がある。	校内平均正答率は、目標値と比べ、4.4ポイント下回っている。共通点や差異点を見出したり、説明したりする問題での誤答が多かった。	校内平均正答率は、目標値と比べ、8ポイント下回っている。記述式の問題の正答率が低かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は目標値より下回っている。第5学年では、全体的に知識の定着に課	校内平均正答率は目標値より下回っている。第5学年では、実験結果から分かること	校内平均正答率は目標値より下回っている。第5学年では、記述式の問題の正答率が

<p>題がある。</p> <p>第6学年では、特に運搬のはたらきについての問題で誤答が多かった。</p>	<p>を答える問題で誤答が多かった。</p> <p>第6学年では、浸食のはたらきや電磁石の性質が実際に利用されている場面について問う問題で誤答が多かった。</p>	<p>低かった。</p>
--	---	--------------

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に動植物を育てたり、観察したりすることで知識を確実に定着させる。 ・実験は少人数で行い、一人ひとりが実験道具を使う時間を確保できるようにしたり、知識、技能を身に付けたりできるようにする。 ・実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 ・ドリルパークなども活用し、理科用語を正しく理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて理科を学習する3年生には、学習の流れやノートの書き方を丁寧に指導する。 ・結果と考察が混同しないよう、考察の書き方を丁寧に指導する。 ・実験の方法を考えさせたり、結果の見通しをもたせたりすることで、科学的に考える力をつけていく。 ・考察を交流させることで、他の人の考えを知り、思考を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や昆虫を実際に育て、日々の変化を授業内外で取り上げることで、学習意欲を高める。 ・主体的に探究する態度を育むために、自然事象に対する児童の疑問を基に問題作りを行う。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTも活用し、実験内容や方法を十分に理解してから実験を行うようにする。 ・実験は少人数で行い、一人ひとりが実験道具を使う時間を確保できるようにしたり、知識、技能を身に付けたりできるようにする。 ・実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 ・何をどのように考え、そこから何が分かったのか振り返る活動をする。 ・ドリルパークなども活用し、理科用語を正しく理解できるようにする。 ・ICTなどを活用し、実際に直接見ることができない現象の映像などを見て、原理を理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の予想する際には、今までの知識や経験から根拠をもち予想させることで、考える力を伸ばしていく。 ・実験の方法を考えさせたり、結果の見通しをもたせたりすることで、科学的に考える力をつけていく。 ・考察を交流させることで、友達よりもよい考えを理解したり、共通点、相違点から妥当な結論を導き出したりすることで、思考を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像、実物を用意することで、知りたいという気持ちをもたせる。 ・主体的に探究する態度を育むために、自然事象に対する児童の疑問を基に問題作りを行う。